

牧 財 第 3 2 号
平成 27 年 6 月 30 日

牧之原市監査委員 加藤 俊夫 様
牧之原市監査委員 良知 義廣 様

牧之原市長 西 原 茂 樹



定期監査（工事関係監査）に関する報告及び意見について

平成 27 年 6 月 16 日付け牧監第 16 号により通知のあった定期監査（工事関係監査）に関する報告及び意見について、別紙のとおり措置状況を報告します。

担当 政策協働部財政課
2 5 5 2、2 5 5 3



平成 27 年度の監査指摘事項に対する措置状況について

防災課

平成 27 年度の定期監査において、監査委員が指摘（意見・要望）した事項に対する措置状況

監 査 指 摘 事 項	措 置 状 況
<p>① I ブロックの避難タワー建設にあたり、地元検討委員の要望等も含めた結果、建設工事変更に伴う追加工事の必要が 2,200 万円余り生じ追加予算措置となった。今回の追加予算の資金手当ては、国からの補助等により市の負担は少額に止まったが、今後、相良及び榛原の各地区で同様に避難タワー等防災整備を進めて行くうえで追加工事も十分に予想される。それに伴い、新たに追加予算措置が必要となる恐れがあるため、追加工事の必要性及び資金調達等については、少費用で事業を遂行できるよう経済性を念頭に置いて対処していただきたい。</p>	<p>26 年第 2 回 牧之原市議会定例会において、9 款 消防費（都市防災）津波防災まちづくり事業について、「津波避難タワーの建設等については、各地区への説明を十分するとともに、地元の意見を取り入れ、合意形成を図り進めていく」旨の付帯決議を付されております。</p> <p>このことから、工事進捗に合わせ、地元の皆様の意向を踏まえ設計変更した結果、増額となりました。</p> <p>具体的には、①夜間避難を安全に誘導する階段部への蓄光材取付け、②一時避難した際の防災用品を備蓄するベンチ、③安全に避難できるように通路に人工芝を設定しました。</p> <p>今後のタワー整備については、この I ブロック避難タワーを牧之原市の避難タワーの標準タイプとして捉え、当初工事費に加えて設計することにより追加工事をなくしていきたいと考えています。</p>
<p>② 避難タワー等構築物の耐震性や強度の説明に際しては、市民誰もが理解できるよう心掛けたい。</p>	<p>避難タワーの耐震性や強度については、南海トラフ巨大地震を対象とした静岡県第 4 次地震被害想定に基づき設計しております。「ご指摘の市民の誰もが分かりやすい説明」については、地震の大きさはマグニチュードの数値で表しますが、市民の皆さんは、気象庁から公表される地盤の揺れを表す震度階級の方が良く理解できるものと考えます。</p> <p>国土交通省から「現在の建築基準法の新耐震基準を満たしている建築物は、どの程度の地震に耐えられるのですか」の質問に対し、回答は、現行の新耐震基準は昭和 56 年 6 月から適用されていますが、中規模の地震（震度 5 程度）に対しては、ほとんど損傷を生じず、極めて稀にしか発生しない大規模地震（震度 7 程度）に対しても、人命に危害をおよぼすような転倒等の被害を生じないことを目標としています。</p>